慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	寛容の美学
Sub Title	The aesthetics of toleration
Author	沼尾, 恵(Numao, Kei)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2022
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2021.)
JaLC DOI	
Abstract	本研究は、寛容な社会というものを美学的な観点からアプローチする試みであった。昨今の政治哲学の研究は、正・不正という正義論を基軸として語られることが多く、逆に醜・美という美学的観点から議論されることはほとんどないのが現状である。しかし、政治哲学がひとというものを主題にしている以上、感性を考慮せざるを得ないという意識から本研究の問いが生まれた。 本研究では、まず寛容とは何かという問いと、美とは何かという問いについてそれぞれ研究したうえで、寛容な社会とは美しいのか、という問いに次第に焦点をあわせていった。しかし、寛容な社会というものも、実のところ、明瞭なものではなく、寛容な社会というものを「見える化」（視覚的なことだけにかぎらず、聴覚的、嗅覚的、味覚的などのこともさす）していく必要性があるということを研究していくうちに気づかされた。また、こうした流れのなか、寛容がどのように表象されていたのかにも関心が広がり、美術において寛容がどのような形で描かれてきたのかにも調査範囲を拡大した。 研究期間では、主に論文執筆を目指してきたが、問題の大きさが次第に明らかになり、ひとつの論文ではまとめることができないということが見えてきた。そのため、ふたつの論文を同時に書き始める方針に方向転換した。ひとつは、政治思想史研究における感性的観点の導入の可能性にかんするものであり、もうひとつは、寛容と美の概念そのものにより迫り、このふたつがどう交差するのかにかんするものであった。また海外の研究者とオンラインでの懇談をとおし、本研究を専門のジョン・ロック研究につなげる可能性を見い出すこともできた。 想定していたよりテーマが膨大なことが判明した一方で、研究の可能性もより鮮明になったと考えている。最終的にはふたつの論文が執筆途中で年度末になったが、今後の研究につながる重要な一歩を踏み出せたと評価している。 The aim of this research project was to consider the idea of toleration from an aesthetic perspective. More specifically, I examined what a tolerant society was and whether it was something that could be considered beautiful. The project aimed to help us visualize a tolerant society as well as diversify the ways in which we can evaluate such a society. During this academic year, I began writing drafts of two papers: one that looks at the possibility of making the study of political theory more sensory, and another that looks at the relation between moral and aesthetic judgments of the idea of toleration.
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2021000003-20210219

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2021年度　学事振興資金（個人研究）研究成果実績報告書

2022年3月30日

研究代表者	所属	理工学部	職名	准教授	補助額	100 （C）千円
	氏名	沼尾 恵	氏名（英語）	Kei Numao		

研究課題（日本語）

寛容の美学

研究課題（英訳）

The Aesthetics of Toleration

１．研究成果実績の概要

本研究は、寛容な社会というものを美学的な観点からアプローチする試みであった。昨今の政治哲学の研究は、正・不正という正義論を基軸として語られることが多く、逆に醜・美という美学的観点から議論されることはほとんどないのが現状である。しかし、政治哲学がひとというものを主題にしている以上、感性を考慮せざるを得ないという意識から本研究の問いが生まれた。

本研究では、まず寛容とは何かという問いと、美とは何かという問いについてそれぞれ研究したうえで、寛容な社会とは美しいのか、という問いに次第に焦点をあわせていった。しかし、寛容な社会というものも、実のところ、明瞭なものではなく、寛容な社会というものを「見える化」（視覚的なことだけにかぎらず、聴覚的、嗅覚的、味覚的などのこともさす）していく必要性があるということを研究していくうちに気づかされた。また、こうした流れのなか、寛容がどのように表象されていたのかにも関心が広がり、美術において寛容がどのような形で描かれてきたのかにも調査範囲を拡大した。

研究期間では、主に論文執筆を目指してきたが、問題の大きさが次第に明らかになり、ひとつの論文ではまとめることができないということが見えてきた。そのため、ふたつの論文を同時に書き始める方針に方向転換した。ひとつは、政治思想史研究における感性的観点の導入の可能性にかんするものであり、もうひとつは、寛容と美の概念そのものにより迫り、このふたつがどう交差するのかにかんするものであった。また海外の研究者とオンラインでの懇談をとおし、本研究を専門のジョン・ロック研究につなげる可能性を見い出すこともできた。

想定していたよりテーマが膨大なことが判明した一方で、研究の可能性もより鮮明になったと考えている。最終的にはふたつの論文が執筆途中で年度末になったが、今後の研究につながる重要な一歩を踏み出せたと評価している。

２．研究成果実績の概要（英訳）

The aim of this research project was to consider the idea of toleration from an aesthetic perspective. More specifically, I examined what a tolerant society was and whether it was something that could be considered beautiful. The project aimed to help us visualize a tolerant society as well as diversify the ways in which we can evaluate such a society. During this academic year, I began writing drafts of two papers: one that looks at the possibility of making the study of political theory more sensory, and another that looks at the relation between moral and aesthetic judgments of the idea of toleration.

３．本研究課題に関する発表

発表者氏名 （著者・講演者）	発表課題名 （著書名・演題）	発表学術誌名 （著書発行所・講演学会）	学術誌発行年月 （著書発行年月・講演年月）